

セレンディピティ

学長 中山 欽 吾

《セレンディピティ》って、聞いたことがありますか？

今回はこの言葉についてお話ししましょう。今年は4人もの日本人がほぼ同時にノーベル賞を受賞したという大ニュースが流れました。このような大発見や大発明は誰にでも出来ることではありませんが、一体どんな人がこのような歴史に残るような偉業を成し遂げるのでしょうか。そこで《セレンディピティ》という言葉が登場するのです。れっきとした英語で、辞書を見ると「掘り出し物を偶然見つける才能、予期せずに大きな発見をすること（能力）」などと書いてあります。

セレンディピティの典型的な例だといわれているのは、2000年にノーベル化学賞を受けた白川英樹氏で、プラスチックは電気を通さないという常識を破って、電気を通すプラスチックを発見した化学者です。他のテーマの実験中に失敗して訳の分からない塊が出来たのを、ふと疑問に思っ捨てずに調べてみたら、わずかに電気を通すことが分かったというのです。

私は以前「高い集中力で研究を続けるうちに、突然パッとひらめいて難題が一举解決（ブレイクスルー）する事があって、それを《思考のジャンプ》と名付けた」と書いたことがあります。現に今回の受賞者の一人は、何十年間、寝ても覚めてもテーマのことしか考えなかったそうで、偉大な発明発見にはこのような経過をたどることも多いでしょう。ところが《セレンディピティ》はこれとは違って、あまり死ぬ思いをしなくても名案が浮かぶというのですから、欧米の科学者の間で今や大きな話題になっているのです。

詳しい辞典を調べると、この言葉の語源は「セレンディップの三人の王子様」というおとぎ話から来ているそうです。セレンディップとは今のスリランカのことですが、おとぎ話を讀んださる英国人が18世紀に造語をしたということが分かっています。知人に好奇心旺盛な科学者がいて、そのおとぎ話を捜しました。インターネットで調べているうちに、米国ネブラスカ州の片田舎の古書店で英訳本を見つけたのです。たった1週間で日本に送られてきたその本を讀んでみると、その王子様のうちの誰かが、そのような希有の能力に恵まれているといった簡単な話ではなかったようです。

最近、ロケット開発や、遺伝子情報の研究など、金や人をふんだんに使って、ある期限でやり遂げるようなプロジェクト指向のやり方が主流になっています。その本家ともいえる欧米の科学者がなぜ《セレンディピティ》に惹かれるのか？そこには人間性を忘れた効率本意の現代社会に対する自己批判があるように思えます。(株)考古堂書店が発売している手作りの科学文芸誌「ミクروسコピア」18巻3号に、おとぎ話の抄訳とともに興味溢れる話が詳しく載っています。筆者も持っていますのでお声掛け下さい。

(なかやま きんご)



Illustration
Mayumi Watanabe

目次

学長からのメッセージ	1
図書館活用術 実践編 ―図書や雑誌の探し方―	2
おすすめの新着図書	4
おすすめの一冊	7
試聴室へ行こう！ ～試聴室おすすめのディスク～	9
図書館資料の選び方	10
リクエストによる購入資料	12

図書館活用術 実践編 ー図書や雑誌の探し方ー

図書や雑誌の探し方は「こういう場合はこうする」というふうにある程度決まっています。その一部をご案内しますので、日常の学生生活、卒業研究やレポートで文献が必要なときに参考にしてください。不明な点は、図書館へお問い合わせください。

1 とりあえず何か本を読みたい。

【方法1】 直接、書架で探す。

○音楽・美術関係→第1 閲覧室。

社会科学、自然科学、産業・技術、その他の芸術、スポーツ・体育→第2 閲覧室。

総記、哲学、歴史、言語、文学、辞書・事典、郷土資料→第3 閲覧室。

○図書は日本十進分類法という多くの図書館で使われている分類法で並べています。

棚に向かって、上から下へ、左から右へ請求記号（背ラベルの番号）順に進みます。

【方法2】 新着図書から探す。

○新しく受け入れた図書は「新着図書コーナー」に並べています。

○当館ホームページ (<http://www.oita-pjc.ac.jp/library/>) の「新着本一覧」で最長3ヶ月以内に受け入れた図書を見ることができます。

2 Aというタイトルの本（Bというテーマについての本）を探している。

【方法1】 附属図書館の蔵書を調べる。

○探している図書のタイトルや著者名で検索し、所蔵の有無、どの書架にあるか（配架場所・請求記号）、貸出中かどうか（ステータス）を確認します。

○「タイトルは正確にはわからないけど、Bについての図書を探している」という場合、Bという単語で「キーワード検索」し、タイトル・著者名、出版社にBという単語が含まれているものがないか探します。

【方法2】 図書の内容・目次を検索して、Bというテーマを含んだ図書を探す。

○探しているテーマが1冊の図書にはなっていないなくても、図書の一部に含まれている可能性があります。

附属図書館の蔵書検索では、図書の内容・目次は検索対象外ですので、次のサイトで調べます。

○国立情報学研究所 Webcat Plus (<http://webcatplus.nii.ac.jp/>) では、1986年以降に発行された図書の目次、帯・カバーなどに書かれた情報を検索できます。

3 附属図書館にはなかったけれど、ぜひ読みたい。

【方法1】 リクエスト（購入希望）する。

○リクエストした場合、利用可能になるまでに1ヶ月程度見込まれます。急ぎのときは以下の方法により他の図書館で探すという手もあります。

【方法2】 県内の図書館の所蔵を調べる。

○県内の大学図書館の所蔵を調べるには

→大分県大学図書館横断検索 (<http://oudan.lib.oita-u.ac.jp/>)

図書を利用したい場合は、学生証を持参して所蔵館へ。

- 県内の公立図書館の所蔵を調べるには
→大分県図書館横断検索 (<http://library3.pref.oita.jp/>)
図書を利用したい場合は、県立図書館又はお近くの市町立図書館へ相談を。
- 県立図書館 (<http://library.pref.oita.jp/>)
利用登録には、免許証・保険証など現住所・氏名を確認できるものがが必要です。

【方法3】 県外の図書館、国立国会図書館のホームページで所蔵を調べる。

- 所蔵館から図書を取り寄せる場合は、往復郵送料の実費がかかります。図書を利用したい場合は、カウンターへ。
- 全国の大学図書館の所蔵を調べるには
→国立情報学研究所NACSIS Webcat (<http://webcat.nii.ac.jp/>)
- 全国の県立図書館の所蔵を調べるには
→国立国会図書館総合目録ネットワークシステム (<http://unicanet.ndl.go.jp/>)
- 国立国会図書館の所蔵を調べるには→NDL-OPAC (<https://opac.ndl.go.jp/>)

4 図書はもう調べたので、雑誌論文を探したい。

【方法1】 論文が掲載されている雑誌名がわかっている場合は、所蔵検索する。

- 探し方は図書と同じです。附属図書館、県内の図書館、県外の図書館、国立国会図書館の順に探していきます。
- 他の図書館に依頼して図書の一部や論文・記事の複写を入手することができます。文献複写できるのは著作権法で認められている範囲内です。また複写料金（所蔵館により異なり、1枚数十円）と郵送料がかかります。
- 国立国会図書館 (<http://www.ndl.go.jp/index.html>) では、個人登録すればインターネットから複写の郵送を申し込むことができます。

【方法2】 あるテーマについて書かれた論文を探す場合は、雑誌記事索引で調べる。

- 国立国会図書館NDL-OPAC (<https://opac.ndl.go.jp/>) の中にある「雑誌記事索引検索」で論題名、著者、雑誌名を調べます。

5 新聞で過去の出来事や事件を調べたい。

【方法1】 記事が載っている新聞名や年月日がわかっている場合は、現物を見る。

- 当館では主要全国紙等7紙を3年間保存しています。それ以前のものやその他の新聞が必要な場合はカウンターへ。

【方法2】 ある出来事を調べたいが、年月日がわからない場合は、新聞記事を検索する。

- 館内の朝日新聞記事データベースで、1984年以降の記事の全文検索、閲覧、印刷ができます。
- 県立図書館「大分合同新聞見出し検索」(<http://library.pref.oita.jp/>) で、1986年以降の『大分合同新聞』の記事見出しが検索できます。

6 文献の調べ方をもっと知りたい。

- 自分で調べてみたい方は、次が参考になります（図書は附属図書館所蔵）。

井上真琴『図書館に訊け!』筑摩書房

世界思想社編集部『大学生 学びのハンドブック』世界思想社

松本勝久『情報検索入門ハンドブック』勉誠出版

国立国会図書館「調べ案内」(<http://www.ndl.go.jp/jp/data/theme.html>)

おすすめの新着図書

今年図書館に新しく入った本のなかからおすすめの本を先生方に紹介していただきました。

本江 邦夫 『現代日本絵画』(みすず書房)

美術科 八木 明知

「現代日本絵画」、このタイトルを見て、皆さんはどのような印象をもたれるでしょうか。この本は、30年近くにわたる著者の批評活動の中から、展覧会図録、リーフレット、カタログ、美術雑誌に掲載されたテキストを集めたもので、37名の現役画家たちが登場します。対話形式はありませんが、それぞれの作家の言葉も数多く取り上げられていて、「現代」の「日本」に生きながら「絵画」を制作し続けていくことにまつわる、何か気の遠くなるような営みが見えてきます。作家のもの見方、考え方と、批評家のそれは全く違うものだと思いますが、それぞれの眼差しの向こうにある「何か」が、批評家の眼と精神を通した言葉としてつづられています。

今、近代以降の美術の解体を目指す「現代美術」の中で、「絵画」はその存在意義を問われていると

思います。価値観の流動の激しい現代社会の中で、今後、「絵画」というものは存在し続けていくのでしょうか。「現代美術」と呼ばれる表現行為も、今日では歴史的な脈の中で語られますが、「絵画」の持つ歴史は「人間」との関わりの中で培われてきたものであり、その延長線の上で、この本に登場する作家たちも、それぞれの仕事を続けているのではないのでしょうか。

「絵画史」「絵画論」ではない、「現代日本絵画」の現場の記録集のようなこの本が醸し出す、世界を肯定する哲学のような全体像は、今ここで絵画を制作している皆さんにもささやかな希望になるのではないかと思います、推薦させていただくことにしました。

(やぎ あきとも/絵画(ミクストメディア))

アラン・ワイズマン 『人類が消えた世界』(早川書房) ほか

音楽科 森口 真司

新着本の紹介ということですが、読書の幅を広げる意味であえて一冊にしぼらず何冊か(新着本でないものも)取り上げてみました。(新着本は太字)

人類だけが滅亡してしまった後の世界はどうか。アラン・ワイズマン「人類が消えた世界」(早川書房)は過去から現在に至る人類の営みを俯瞰し、人類消滅後の世界を冷徹に予想する。「人類だけが消滅する」という極端な設定により、我々が過去に何をしてきたか、何を造ってきたかを深く考えさせられる一冊。環境問題といえば地球温暖化人為説に対する懐疑派の急先鋒、武田邦彦「偽善エコロジー」(幻冬舎新書)「環境問題はなぜウソがまかり通るのか1~3」(洋泉社)池田清彦「環境問題のウソ」(ちくまプリマー新書)、さらにその批判本として山本弘(と学会会長)「“環境問題のウソ”のウソ」(楽工社)。賛否はともかく思考停止に陥らないためにも両論併せて読んでみよう。

思考停止を避けるヒントにしてほしいのが高橋昌

一郎「哲学ディベート<倫理>を<論理>する」(NHKブックス)。題名をみただけで敬遠しそうだが、死刑、安楽死などの問題を様々な角度から議論するという内容のもの。決して難解ではないのでぜひ手に取ってほしい。高橋昌一郎さんという方、ハズレ本はなく「理性の限界 不可能性・不確定性・不完全性」(講談社現代新書)は極めて知的スリルに満ちており、やさしい内容ではないが、現代科学や数学の限界をかなり分かりやすく解説している。完璧に民主的な選挙は実現不可能(アローの不可能性定理)、素粒子の奇妙な(ほとんどオカルト的!)な振舞い(ハイゼンベルクの不確定性原理)、神が存在しない証明(ゲーデルの不完全性定理)と聞けば多くの人が興味をそそられるであろう。ちなみにゲーデルの解説書はひと通り読んでみたが、やはり高橋氏の「ゲーデルの哲学—不完全性定理と神の存在論」(講談社現代新書)が門外漢の私にも一番取っ付きやすかった。高橋昌一郎さん、オススメです!

(もりぐち しんじ/指揮)

池田晶子著 『人生のほんとう』（トランスビュー）

国際文化学科 上野正二

図書館に行った折りに新着コーナーで池田晶子という人の『人生のほんとう』という本を見かけた。誰が発注されたものか私は知らないが、この著者にはいささか思想上の面識があるので何とかなるだろうと思って、この本について書かせてもらうことにした。

ところが、少し読み始めてすぐに後悔し始めた。著者本人がいうような「かなり変わった考え方をする」とか「唐突な言葉が出てくる」などということぐらいでは驚きはしないのだが、一見私自身が普段考えているようなことについて述べているようでありながら、いわゆる常識と思われている事柄から彼女の言う〈常識〉（それは「生きているすべての人にとって当たり前のことで—普遍的な知識のこと」なのだそうだ）へと辿り着く筋道が見えないのだ。思索を辿れないのだ。彼女を教祖と崇めてそれで用が足りているらしい講演の聴講者ならそれでもいいのだが、私としては結論的・高踏的な言葉を復唱して喜んでいる訳にもゆかぬし、そんな言葉を温めて何時かピントの合う日が来るのを待つ程のことでもないだろうと思う。

内容は、Ⅰ・常識—生死について、Ⅱ・社会—その虚構を見抜く、Ⅲ・年齢—その味わい方、Ⅳ・宗教—人生の意味、Ⅴ・魂—自己性の謎、Ⅵ・存在—人生とは何か、という六つの講演からなっている。いずれも一回で語りきるというやり方ではなく、毎回著者が思っている最重要事態へと引き摺り込みまたそこから語り出し、全体として人生とは何であるのかを問う、といったかなり粘っこいことをやっている。その道具立てとしては、私にも馴染みのあるハズの禅仏教、プラトン哲学とユング心理学およびヘーゲル哲学が下敷きにあるようなのだが、くりかえすが、私には著者の思索の跡をたどる事ができない。

著者によると、哲学とは普遍的な事柄を捉まえるところに発生するものであり、一旦そういうものを捉えたと、そこから箇々の生活の現場を見直したと

き全然違ったものに見えてくるし、生き方の構え・人生の味わい方が変わってくると言う。そこをならば彼女は人に教えることができる、と言う（15）。哲学とはそういうものだろうと私も思ってきたのでそういう趣旨には賛同するのだが、彼女は果たしてこの講演、この書物で旨くやり得ているだろうか？

そういう趣旨に合う書物としては、古典から現代のものまで定評のあるものが数多く出版されており安く容易に手に入れることができる。我々は、花から花へと飛び回って気軽に蜜を舐めるようなやり方ではなく、どれか一冊とじっくり取り組むことによって、論理性を身につけながら、論理を越えた事柄に親しめるようになるだろうと思う。

(うへの しょうじ/哲学)



W.スティーヴン・ロールズ+ジェフリー・A・シンプソン編
遠藤利彦+谷口弘一+金政祐司+申崎真志監訳
『成人のアタッチメント』（北大路書房）

國分康孝監修 『エンカウンターで学級が変わる』（図書文化）

情報コミュニケーション学科 藤田 文

私たちの心の発達に必要なもの、それは「愛」でしょう。身近な両親、そして人生で出会う様々な人々からの愛が私たちの心を育ててくれます。理論的には「アタッチメント（愛着）」といわれ、人は本来、人に対するアタッチメントを形成しようとする存在であるといわれています。

アタッチメントは、ボウルヴィという研究者によって理論化されましたが、その後子どもの時期だけでなく、成人を対象としたアタッチメント研究が行われるようになりました。「成人のアタッチメント」という本は、成人のアタッチメントの理論や研究方法また将来的な展望などを詳細にまとめたものです。日本のアタッチメント研究の先端をいく研究者によって翻訳されています。

人は対人関係に関するイメージをどのように持っているのか、その個人差はどのように測定されるのか、アタッチメントの個人差は世代間伝達するのかなどホットな内容が満載です。専門的な内容ではありますが、愛から始まる私たちの心の根幹を考えるのには良い本だといえるでしょう。

心を自分ひとりで作っていくことは難しいです。やはり人との関係の中で自分に気づいていくものだと思います。人間関係の中で、ホンネとホンネの交流や感情交流ができるような親密な体験を行う「エンカウンター」というものがあります。これについて簡単に解説したものが「エンカウンターで学級が変わる」という本です。さまざまなエクササイズを通して集団で行う構成的グループエンカウンターが、

小中学校などでも実施されるようになってきました。エンカウンターを体験することで、人と関わる技術を学習するだけでなく、深い感情体験をとおして自己を発見することができます。

このようなエンカウンターの技法や実践、その理論的背景を解説した本書は、ピアヘルパーの資格を取得しようとする学生には必読のものです。小学校編、中学校編、高等学校編が図書館に入りましたので手にとってみてください。

（ふじた あや／発達心理学）



おすすめの一冊

※取り上げられた本は、附属図書館に所蔵もしくは所蔵予定です。

小泉文夫『日本の音』（平凡社ライブラリー）

音楽科 河野敦朗

小泉文夫氏は、西洋音楽も民族音楽も研究し、精力的なフィールドワークと研究とわかやすい解説で民族音楽の普及に活躍した人です。この本は、世界の民族音楽の中での日本音楽の本質や歴史的動向を述べていて、それは日本の伝統文化の考察にはじまり、生活の中での音楽、雅楽や能楽や仏教音楽の解説、また尺八や箏や琵琶などの楽器の説明や、日本音楽の理論の周到な解説に及びます。

しかしこの本のすばらしいところは、音楽の解説にとどまらず、日本文化の本質や、世界の中の日本文化の状況や未来、東洋と西洋の本質的な文化の問題まで見事に俯瞰し、その批判や、あるべき未来まで述べられていることです。

音楽についていえば、あらゆる音楽の中での西洋

音楽の本質、日本が西洋音楽を取り入れた歴史と現在のありかたまで述べられていますが、読み進むうちに、それが単なる批判でなく、私たちが様々な民族音楽を知らないのと同じように、西洋音楽についてもいかに狭い一部分しか知らないのではないかということに言及していると気づきます。

この本を読むと、私たちが、民族音楽も含め、いかに少ない知識や狭い理解のなかだけで音楽に携わっているかを思い知らされます。音楽という世界には、私たちがまだまだ知ることの無い多様な複雑な深い世界がどこまでも広がっている、そんな実感を与えてくれます。音楽に行きづまっている人には目の覚める本です。小泉氏の同じシリーズの「音楽の根源にあるもの」も、さらに民族音楽や音楽そのものの本質に触れた本で、おすすめです。

（こうの あつろう／作曲）

D. カーネギー『人を動かす』（創元社）

美術科（非常勤講師） 後藤泰幸

あまりにも有名な本である。「人を動かす」はD（デル）・カーネギーによって書かれ1936年に発売された。日本語版の発売は1958年。人間関係のバイブルとして世界的ベストセラーになった、カーネギーの代表作である。そこには人に対し議論や理屈で打ち負かしても相手は決して納得しない。人を動かすには、相手の立場に立ち、望んでいることを掴め。誠実な心で接すれば人は必ず心を開く。人を動かすには人の心を動かす事だと書かれている。描かれたエピソードは米国の事であり、いかにも大昔の本ではある。しかし、決して変わりえない人間の本质をみごとにあぶりだし、世紀を越えて現在も世界中で売れ続けるという超ロングセラーになっている。この本の中には数々の実際に起こった事例が分かり易く示唆にとんだ語り口で紹介されている。今となつては少々古めかしい記述もあるが、1,500万部以上が売られ今なお世界中で売られ続けていることは、

取りも直さず、この本が何時の時代にも人々の切実な要請にこたえ続けている証左であろう。私はこの本を30歳の頃に初めて手にした。映画でも本でも一度は見ておきたい名作・定番とはあるものである。世の中ですでに一定の評価を得ている名品に接する時、今の自分の中に育っている感性にどのように響くのかを知る事も又、新しい発見に繋がるのではないだろうか。一冊の本を20歳の時に読むこと、又、30歳、40歳年齢を重ねて再び手にした時に、そこから発してはいたが、その時には未だ読み取る事のできなかつた意味合いや深い啓示が見えてくることもある。この本はあらゆる自己啓発の原点とも言うべき本である。他に姉妹書として「道は開ける」がありD.カーネギーを語るとき一対の本として紹介される。こちらには不安・悩み・絶望からの抜け出す対処法が書かれている。二冊とも、一気に読み通さなくても、共感する所を拾い読むだけでも十分に意義深い本である。

（ごとう やすゆき／インテリアデザイン）

推理小説あれこれ

国際文化学科 野坂 昭雄

読書の秋、普段本を読まない人が「ちょっと何か読んでみようかな」と思ったら、推理小説などが手頃かもしれない。

私の小学校時代は江戸川乱歩の少年探偵シリーズが流行っていて、生徒間で争うようにして読んだ記憶がある。その後、シャーロック・ホームズで有名なコナン・ドイルや、モーリス・ルブランの怪盗ルパンシリーズなどを読んだ。また本格的な推理小説では、少し古いがガストン・ルルー『黄色い部屋の謎』やクロフツ『樽』などが個人的には好きである。エラリー・クイーンの『Yの悲劇』も面白かった。それほど多くの推理小説を読んでいるわけではないが、思い出したように時々無性に読みたくなる。

最近、日本のミステリを少しずつ読んでいる。綾辻行人は、デビュー作『十角館の殺人』で大分県の離島を舞台にしている。(これは夫人で作家の小野不由美が大分県出身であるため?)『十角館の殺人』は「叙述トリック」と言われるトリックを用いており、結末で明らかにされる犯人は意外な人物である。

また、法月綸太郎のりづきりんたろうの作品は大抵読んでいます。『密閉教室』『頼子のために』などがお薦めですが、法月も叙述の仕方が単線的でなく、複雑な構造を備えている。作品の構造を複雑にして読者を混乱させるのは、最近のミステリの特徴と言えるかもしれない。

昭和三十年代には社会派ミステリが流行、トリックの斬新さを競うのではなく、社会の暗部を摘出することが目指された。代表的な作家である松本清張は、『砂の器』や『点と線』などの代表作が映画・ドラマ化されているので、ご存じの方も多いただろう。最近では水上勉の『耳』を読んだ。東京のオフィス街で切り落とされた片耳が発見され、まもなく遺体も確認されるが、「なぜ片耳が切り落とされたのか」「なぜその男性が殺害されたのか」を捜査する過程が面白い。事件の背後には、ある労働争議と地方代議士の思惑とがあった。社会派ミステリのリアリティと緊張感を存分に伝えてくれる作品である。

たかが推理小説、と思うなかれ。社会の問題や人間の心理を分析する力が試される推理小説は、「人間」を考える一つの手がかりを提供してくれるはずである。

(のさか あきお/日本文学)



小室直樹『数学を使わない数学の講義』

(ワック出版)

情報コミュニケーション学科 狩谷 新

昨年、20歳になった途端に、さっさと学生結婚してしまったわが娘が中学生の頃「私は数学が嫌い!だって数学の問題の国語が間違ってる。意味わかんない!」とのたまった。その場にいた息子も妻も大きく頷く。三対一では勝ち目が無いので、僕もその場では賛成しておいた。こういうのを処世術という。その国語がどんな風に間違っているのかを示す必要もないほど、この意見に賛同する学生も多いようだ。

しかし、ちょっと待っていただきたい。そもそもこれは「逆」のお話。「江戸の仇を長崎で討つ」わけではないが、この場を借りて、時空を超えた反論を試みてみよう。

人間というのは不思議な生き物で、寿命を全うするだけでは飽き足らず、自らの人生を価値あるものにしようと様々な努力をする。全ての人が同じことを望むと「争い」が起り、そうかといって、全員

がそれぞれ違うものを望むほど選択肢は多くない。調整が必要になる。この「調整」が簡単ではないことは誰もが知っている。

二人の男が一人の女性を妻にしたいと願う。共有という考え方もあるのだが、二人にはその意思が無い。動物なら、肉体的な戦いで解決すればいいのだが、そうもいかない。二人は話し合っ、当の女性の選択に従うことにする。ところが、この女性は別の男性と結婚したいと考えている、しかもその相手は、別の…。何かを解決するために、一つのルールを定めると、別の問題が発生する。世の中はこうして複雑になっていく。それをなんとか簡単にしようとしたのが「数学」なのだ。そのことを僕に教えてくれたのが、この本だった。「反論になってないじゃないか!」怒っちゃいけない。この文章の目的は、「本を推薦すること」著者はこんなことも言っている。「数学を知っているか否かが、成功への一大ターニングポイントになる」読んでみたくなかったかな?

(かりや しん/メディア・コミュニケーション)

試聴室へ行こう!

～試聴室おすすめのディスク～

ブザンソン音楽祭における最後のリサイタル

DINU LIPATTI

EMI ミュージック・ジャパン

音楽科 磯崎 淳子

みなさんに聞いていただきたいCDはたくさんあるのですが、今日は、多分皆さんがご存知ないピアニストのCDをご紹介します。

このレコード（当時は、CDというものは無かったので）は当時音大生であった私の音楽観を大きくかえたものでした。

演奏者のディヌ・リパッティは、1917年ルーマニア生まれのピアニストです。しかしわずか33歳で白血病の為この世を去ってしまった彼の録音は少なく、この「ブザンソン告別リサイタル」はまさに彼の最後の演奏会のライブ録音です。医師の立会いの下行われた演奏会でCHOPINのワルツを全曲演奏するはずでしたが、最後の一曲を弾くことを断念せざるを得ない状況でした。最後のワルツの代わりに彼が弾いたのは、BACHのコラール「主よ、人の望みの喜びよ」だったそうですが、これはこの録音に入っていません。

初め私はこのような劇的なストーリーは一切知らないままこのレコードをたまたま聞いたのですが、何故か涙がとまらなくなったことを覚えています。彼の清楚で気品のあるデリケートな音楽、その完璧なピアニズムに接し、その透明で美しい表現は、心の奥深く押し寄せて胸が苦しくなるほどのものでした。今でもこのCDを聞くと胸が苦しくなります。なんとシンプルでセンスのある美しい演奏であることか！

この彼の「白鳥の歌」ともいえるライブはどれもが美しく素晴らしいものであるとおもいますが、私

はとくにSCHUBERTの即興曲、MOZARTのソナタの計り知れない透明感のある演奏が好きです。勿論CHOPINのワルツもどれをとっても素晴らしく、ライブであるゆえの全体を貫く緊張感は、筆舌に尽くしがたいものです。死を目前にこれが最後の演奏会と知りながらピアノに向かっていった彼の気持ちをおしはかってしまうとなかなか二度目からは最後まで聞く勇気がもてなくなりました。けれど、こんなに録音状態が悪いのに何度聞いても感動してしまうCDは他にありません。他にやはり録音状態はよくありませんが、演奏会最後に弾いた「主よ、ひとの望みの喜びよ」が別の録音でリパッティ「ピアノ小品集」として試聴室にあります。他にグリーグのピアノ協奏曲も美しい名演なので是非一緒にきいてみてください。

(いそぎき あつこ/ピアノ)



図書館資料の選び方

図書館の資料購入用の予算は年度ごとに決まっています。今年は約1,000万円で、そのうち雑誌に350万円、図書・楽譜・CDなどに約650万円を充てる予定です。この範囲内で学生や教員が必要とする資料を買い揃えていきます。

図書館の資料を選んでいるのは教職員です。大まかに言えば、4学科の教員と図書館の職員が1 / 5ずつ分担して選んでいます。各学科では、関係する分野の専門図書として、学生の学習に必要なもの、学生の教育に必要なもの、教員の研究に必要なものを選んでいきます。その一つとして音楽科では楽譜や試聴室に置くCD・DVDも選び、残りの3学科は教材となるDVDも選んでいます。

一方、図書館では、学生の利用動向に留意しつつ、新聞の書評欄で紹介されるような教養的な図書や時事の話題に関する図書、学生の学習用の専門図書、シラバスに掲載された教科書や参考文献、学生の需要の多い資格取得や進路選択に関連する図書、小説や読み物などのベストセラー、学生の暮らしに役立つような図書、調べもので使うような事典・辞書類などを選んでいきます。

今年、図書館が選んだ図書の一部を紹介します。

【教養的な図書、時事の話題に関する図書】

- 斎藤美奈子 『本の本 書評集1994-2007』 筑摩書房
速水 健朗 『ケータイ小説的』 原書房
石黒 圭 『文章は接続詞で決まる』 光文社
町山 智浩 『アメリカ人の半分はニューヨークの場所を知らない』 文芸春秋
仲正 昌樹 『集中講義! アメリカ現代思想 リベラリズムの冒険』 日本放送出版協会
渡辺 将人 『見えないアメリカ 保守とリベラルのあいだ』 講談社
森政 稔 『変貌する民主主義』 筑摩書房
ミシェル・ド・セルトー 『ルーダンの憑依』 みすず書房
森田 ゆり 『子どもへの性的虐待』 岩波書店
内澤 旬子 『世界屠畜紀行』 解放出版社
菅野 仁 『友だち幻想 人と人の「つながり」を考える』 筑摩書房
青柳いづみこ 『ボクたちクラシックつながり』 文芸春秋
梅 佳代 『うめめ』 リトルモア
森岡 正博 『草食系男子の恋愛学』 メディアファクトリー
竹田 昌弘 『知る、考える裁判員制度』 岩波書店
八代 嘉美 『ips細胞 世紀の発見が医療を変える』 平凡社
岩波書店編集部 『ブックガイド〈宇宙〉を読む』 岩波書店

【学生の学習用の専門図書】

- 畑中 良輔 『ドイツ歌曲集 1~2』 全音楽譜出版社
森田 学 『音楽用語のイタリア語』 三修社
奥中 康人 『国家と音楽』 春秋社
平林 直哉 『クラシック名曲初演&初録音事典』 大和書房
高橋 裕子 『西洋美術のことは案内』 小学館

- 石鍋 真澄ほか 『ルネサンス美術館』 小学館
 尾崎 彰宏 『レンブラント、フェルメールの時代の女性たち：女性像から読み解くオランダ風俗画の魅力』 小学館
 ティエリ・グルンステン 『線が顔になるとき バンドデシネとグラフィックアート』 人文書院
 多田 治 『沖縄イメージを旅する』 中央公論新社
 武田 丈ほか 『アクション別フィールドワーク入門』 世界思想社
 森 仁志 『境界の民族誌 多民族社会ハワイにおけるジャパニーズのエスニシティ』 明石書店
 新井 潤美 『自負と偏見のイギリス文化 J・オースティンの世界』 岩波書店
 蓮實 重彦 『映画論講義』 東京大学出版会
 荻谷 剛彦 『杉並区立「和田中」の学校改革 検証地方分権化時代の教育改革』 岩波書店
 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則編（美術編、音楽編）』 ぎょうせい

【資格取得や進路選択に関連する図書】

- 中村 澄子 『できる人のTOEICテスト勉強法』 中経出版
 日本英語教育協会 『英検準1級（準2級）全問題集増刊』 旺文社
 フォーサイト講師室 『「日商簿記3級」ラクラク合格過去問題集』 すばる舎リンケージ
 富士通エフ・オー・エム株式会社 『ITパスポート試験対策テキスト&問題集』 FOM出版
 実務技能検定協会 『秘書検定試験2級（3級）実問題集』 早稲田教育出版
 日経ナビ&就職ガイド編集部 『就活 就職活動ナビゲーション』 日経人材情報

【小説や読み物などのベストセラー】

- 東野 圭吾 『流星の絆』 講談社
 小川 糸 『食堂かたつむり』 ポプラ社
 宮部みゆき 『おそろし』 角川書店
 海堂 尊 『イノセント・ゲリラの祝祭』 宝島社
 恩田 陸 『きのうの世界』 講談社
 畠中 恵 『いっちゃん』 新潮社
 辻村 深月 『ロードムービー』 講談社
 石田 衣良 『シューカツ！』 文藝春秋
 絲山 秋子 『ばかもの』 新潮社
 古川日出男 『聖家族』 集英社
 太田 あや 『東大合格生のノートはかならず美しい』 文芸春秋

【暮らしに役立ちそうな図書】

- 宮本 千夏 『冷凍保存で使い切りおかず』 グラフ社
 鈴木登紀子 『ばあばに教わる和のごはん』 家の光協会
 鍛冶 良堅 『くらしの法律百科 改訂新版』 小学館
 『ライトマップ大分県道路地図 2版』 昭文社

この他に、教職員による資料の選定を補うという観点から、リクエスト（購入依頼）を受け付けたり、書店で選書ツアーを開催したりすることによって、学生の皆さんの要望にできるだけ応えていきますので、必要な資料がある方は図書館にご相談ください。



リクエストによる購入資料 (平成20年度上半期)

時期	タイトル	著者	出版社
4月	フルート四重奏ニ長調 (含むパート譜) (楽譜) 相棒 seson 1 相棒 seson 2 上	モーツァルト 興水泰弘 興水泰弘	Bärenreiter 朝日新聞社 朝日新聞社
5月	ラ・パティスリー Art & Today 北欧が好き、フェルトが好き。原毛から作るちいさな雑貨。 はじめての美術史 ロンドン発、学生着 Wall and Piece Carving Classic Female Figures in Wood Animals in Motion The Human Figure in Motion	上田早夕里 Eleanor Heartney 山崎左織 マルシア・ポイントン Banksy Ian Norbury Eadweard Muybridge Eadweard Muybridge	角川春樹事務所 Phaidon Press Ltd 河出書房新社 スカイドア Century Fox Chapel Publishing Dover Publications Dover Publications
6月	イタリア歌曲集 1 高声用 (楽譜) はたらきたい。 歌劇《皇帝ティートの慈悲》全曲 ザルツブルグ音楽祭2003年 (DVD) 歌劇「夢遊病の娘」全曲 (DVD)	畑中良輔 糸井重里 モーツァルト ベルリーニ	Zen-on Music 東京糸井重里事務所 T D K T D K
7月	従軍慰安婦のはなし 十代のあなたへのメッセージ Smile トッピラストレーターの描きのテクニック photoshop Art Style File プロの技に学ぶ! Photoshop技法撰書 (CD-ROM付) 屍鬼 1~5 新潮文庫 寺田克也全部 寺田克也全仕事集 絵画の制作学 ラブコメ今昔 ヴァイオリンとピアノのためのソナタ (Ravel.M) (楽譜) 荒野 Suite op 157b pour violin clarinette et piano (楽譜) 歎異抄をひらく RURIKO 樹々の響き (CD)	西野留美子 宮本笑里 MdN編集部 MdN編集部 小野不由美 寺田克也 藤枝晃雄 有川浩 ラヴェル 桜庭一樹 Darius Milhaud 高森顕徹 林真理子 国塚貴美 他	明石書店 ソニー・マガジズ 誠文堂新光社 エムディエヌコーポレーション エムディエヌコーポレーション 新潮社 講談社 日本文教出版 角川書店 Duran 文藝春秋 Salabert 1万年堂出版 角川書店 [マザーアース]
8月	人知れぬ涙 ベル・カント・アリア集 (CD) 種子 (タネ) たちの知恵 別冊 図書館戦争 2	多田多恵子 有川浩	ユニバーサルミュージック 日本放送出版協会 アスキー・メディアワークス
9月	続けてきただけ 波打ち際の蜩 松井冬子 1・2 ベーコン Chicaライフ	S E A M O 島本理生 松井冬子 井上荒野 島本理生	辰巳出版 角川書店 エディション・トレヴィル 集英社 講談社

リクエストについて...

図書館に所蔵のない本で、読みたい本や、購入して欲しい本があった場合、希望により購入することが出来ます。
購入して欲しい本のある方は、お気軽にカウンターまでおいで下さい。

大分県立芸術文化短期大学附属図書館

図書館だより No.11

発行日 2008年(平成20年)12月1日発行
編集・発行 大分県立芸術文化短期大学図書委員会
大分県立芸術文化短期大学附属図書館
〒870-0833 大分市上野丘東1番11号
電話：(097) 545-4235
ウェブサイト：<http://www.oita-pjc.ac.jp/library/> (図書館)
<http://www.oita-pjc.ac.jp/~tsdayori/> (図書館だより)
イラスト：美術科デザイン専攻1年 渡邊 真弓
印刷 (有)大分プリント社